

競 技 上 の 注 意

1 本大会は2024年（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

(1) 競技者は招集集合時刻に招集所に集合し、競技者係より胸背部のアスリートビブスと腰ナンバー標識等の確認を受け、終了後、競技者係の誘導に従って競技場内に入場する。

棒高跳びの招集は現地で行う。プログラム記載の招集集合時間に現地に集合すること。

(2) 長距離競走出場（3000m、5000m、5000mW）の競技者へは、招集時に胸用の特別アスリートビブスを配布する。（安全ピンは各校で準備すること。）背中のアスリートビブスは各自のものをつけること。また、腰ナンバー標識（10番以降）を招集時に係より受け取り、退場の際、招集所に返却すること。

(3) 代理人による招集は認めない。

(4) 競技を棄権する場合には招集所競技者係に申し出て指示に従う。招集完了時刻に遅れた競技者は棄権とみなす。

3 使用できるシューズ・スパイクについて

本大会は競技規則TR5を適用する。使用できるシューズ・スパイクは以下のとおりとする。規定を超えたものを使用した場合、失格となる。

種目	ソールの厚さ
100m～400m、100mH、110mH、400mH 走幅跳、走高跳、棒高跳 砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投	20mm以内
800m～5000m、3000mSC 三段跳	25mm以内
5000mW	40mm以内

4 競技者の変更は認めない。

5 アスリートビブス、腰ナンバー標識（1～9レーン）は各校で準備すること。10レーン以降の腰ナンバー標識は、該当種目招集時に配布する（安全ピンは各自で準備）。トラック種目出場者は胸背部にアスリートビブスを、腰部（右腰後方）に腰ナンバー標識をつける。フィールド種目出場者は胸背部（跳躍競技は胸部・背部片方のみでもよい）にアスリートビブスをつける。

6 棒高跳のポール以外は、競技場備えつけの用具を使用する。

やり（男女）の持ち込みについては、13日8:30～9:00に本部にて検定を行う。検定を受けたやりは共有で使用することができる。

7 トラック種目において、同タイムの場合は1/1000秒単位をもって判定する。

8 5000mWは、制限時間を設ける。下記の時間までに最終周に入れなかった場合は、レースを中止させる。

〈途中棄権扱いとする〉

女子 5000mW ; 最終周で 33 分 30 秒以内、 男子 5000mW ; 最終周で 33 分 30 秒以内

9 個人情報の取り扱いに関して

大会参加に際して提供される個人情報は本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはない。

10 ゴミ処理について

ゴミは、各自で必ず持ち帰ること。

11 跳躍競技の男子 1 年走幅跳と男子・女子共通走幅跳、男子共通三段跳は 2 ピットで行う。

12 バーのあげ方

			練習	1	2	3	4	5	6	7
男子	共通	走高跳	1m60 1m80 1m90	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m88 以降 3cm ずつ
	共通	棒高跳	2m80 3m60 4m00	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m70	3m80 以降 10cm ずつ
女子	共通	走高跳	1m30 1m45 1m55	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m58	1m61 以降 3cm ずつ
	共通	棒高跳	1m80 2m60 3m00	2m00	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	2m90 以降 10cm ずつ

13 計測ライン (天候等の状況により変更することがある。)

		走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	1 年	5m00	/	/	20m00	/	/
	共通	5m50	10m00	7m50	20m00	20m00	30m00
女子	1 年	/	/	/	なし	/	/
	共通	4m00	8m00	なし	なし	なし	20m00

※ 三段跳の踏切版は男子 10m、11m、女子 8mで行う。

14 1 位～3 位までの表彰を行う。3 位までに入賞した選手は競技終了後 30 分を目安に行う。賞状は 3 位までとする。

表彰式については、選手保護の観点からチームジャージまたはチーム T シャツで出席すること。下半身は、ジャージまたはハーフパンツとする。その際、広告および掲示物に関する規定を遵守すること。

15 ハードル補助員 (1 校 3 名とする)

1 台目 佐和 2 台目 東洋牛久 3 台目 土浦日大 4 台目 牛久栄進 5 台目 古河一
6 台目 古河中等 7 台目 霞ヶ浦 8 台目 下館一 9 台目 境 10 台目 つくば秀英

16 競技者・補助員以外の競技場内への立ち入り禁止とする。また、競技場内への通信機器 (ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話など ※イヤフォンを含む) の持ち込みは禁止とする。

- 17 プログラムの氏名・アスリートビブスなどに訂正がある場合は、招集所競技者係に申し出ること。
- 18 助力については、競技規則TR 6に従う。なお、競技場の特性上、走幅跳、三段跳、棒高跳に関しては、映像機器等をスタンドから吊り降ろしたり、競技者に手渡したりしての映像の確認は認めない。スタンドから映像を見せる場合はコーチエリアを利用すること。
その他のフィールド種目に関しては、指定されたエリアで映像確認を行うこと。録画再生機器や録画映像を競技区域内に持ち込むことは認められない。

練習会場での注意事項

- 1 練習は各校監督の指導のもと、事故防止に十分配慮すること。
- 2 補助競技場では危険が伴うので、十分注意して行うこと。
- 3 補助競技場の使用レーンについては次の通りとする。
1～2 レーン：中・長距離 3～6 レーン：短距離 7～8 レーン：ハードル
- 4 補助競技場の使用についてはトラック最終種目の招集完了時刻をもって終了する。
- 5 投てき場での投てき物(砲丸、円盤、ハンマー、やり)を使った練習は禁止とする。メディシンボール等の用具を使った練習は投てき場のみとする。投てき種目の競技が終了次第、投てき場は施錠する。